



紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

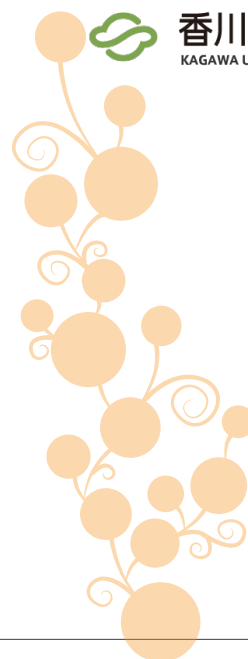
3



平成29年3月24日に修了式を行い、短期履修学生制度を活用された12名の第1期の現職派遣院生を送り出し、平成29年4月、2期生を迎えて新たな1年がスタートしました。今年度は岡山県からの政策課題派遣による院生が2名となりました。香川大学教職大学院の特色の一つである道徳教育や特別支援教育に関する課題についての派遣であり、政策課題解決に向けた大きな期待が感じられます。院生室の机の配置や様相も変化し、新たな風を感じてのスタートです。

また、1期生の修了生には、教職大学院で学んだことを少しずつでも生かしながら、子どもたちと共に歩んでほしいと願い、フォローアップ・プログラムを通して支援しています。学校現場に戻った院生のフォローアップとしての、「教職実践研究交流会」を平成29年8月5日にも開催できました。新たな風で、紙飛行機も飛んでいます。

開設年度の初めての試みでしたので、参会者の皆様にはご意見を十分に伺うことができなかったかもしれませんが、ご容赦ください。



From finished graduate students

修了生の声

教職人生の指針

丸亀市立飯山北小学校 原田晃輔

大学院での学びは、私に多様な価値観を与えてくれました。それまでの自分は、経験知や思い込みに固執し、安易に身に付いた価値観を頼りにがむしゃらに進んでいました。しかし、授業研究や特別支援教育の基礎、カリキュラム・マネジメントなどを学ぶことで、より自由な発想で学校現場を俯瞰することができるようになってきました。

学校現場に戻り、大学院での生活が遠い過去のように感じますが、教職大学院での学びは教職人生の指針として自分の進む道を照らしてくれます。これからも大学院での学びを胸に子どもたちと向き合い、新たな学びに挑戦していきたいと思えます。

笑顔と反省と

高松市立高松第一中学校 石井邦代

「通級って何をするとところですか？」と何回聞かれたでしょうか。「彼らが学級で通用するように頑張ってます。」と笑ってごまかし、今でも返答に戸惑っています。また「大学で学んできたことを活かして・・・。」と言われるたび、「努力します。」と笑顔で答えながら「もう一度大学へ戻りたい。」と呟いています。生徒に「何の教科？」と聞かれ「英語」と答えてしまいます。初任者の頃とはまた違う不安定な自分と過ごしているのです。今頑張れるのは、放課後に私の学級へ学びに来る生徒がいるから…。

彼らのニヤリとする笑顔を見ると「よし、今日の仕事合格！」とこっそり笑ってしまいます。忘却曲線上り調子の年頃だけれど、それ以上に学び続けていこうと思っています。

かがわ道徳ラボのご案内

熱気溢れる9月30日開催の「かがわ道徳ラボ」



本学教職大学院では、独立行政法人教職員支援機構の事業である「教員の資質向上のための研修プログラム開発事業」の採択を受けて、平成28年度、29年度と香川県教育委員会、香川県教育センターとの連携のもと、道徳の教科化に向けた研修の場として、「かがわ道徳ラボ」に取り組んでいます。今年度も7月から「かがわ道徳ラボ公開講座」や「かがわ道徳ラボ研修会」を実施しています。今後の日程は、以下の通りです。

詳しくは Web で (裏面参照)

かがわ道徳ラボ研修会Ⅲ

平成29年10月28日(土)13時から
香川大学にて
「校内研修と評価の具体的な進め方について考える」
鈴木賢一氏(愛知県愛西市立八開中学校)による講話など

かがわ道徳ラボ研修会Ⅳ

平成29年12月9日(土)13時から
香川県教育センターにて
「道徳科全面実施に向けて再確認」
澤田浩一氏(文部科学省教科調査官)による講演、横山利弘氏(関西学院大学名誉教授)による対談など

人とのつながりを大切に

特別支援教育コーディネーターコース

上枝 真実

小学校の養護教諭として働き始めて5年が経ち、求められる知識や技能も高くなってきました。目の前の子どもの困り感に気づいても、どう対応してよいか分からず、悩んだことも多かったのですが、教職大学院では最新の情報だけでなく、理論や歴史について学び、また校種や経験年数も様々な仲間とディスカッションすることでさらに内容を深めることができています。

また、特別支援教室「すばる」や附属特別支援学校、医療・療育機関等の実習では、専門性の高い個に応じた指導や合理的配慮の実際を通して学びを深めることができました。さらに、カリキュラム以外でも積極的にセミナーに参加することで、人や専門機関とのつながりを構築していくことができていると実感しています。

教職大学院で得た人とのつながりや学びを大切に、さらなる子ども理解に努め、学校現場の課題解決と校内支援体制の充実、地域連携について取り組んでいきたいと考えています。

前期の授業では、現場では得ることのできない新たな理論や、現場での経験の裏付けとなる考え方を学んできました。特に、大学の先生方や同僚の院生たちとの議論やグループワークでは、専門的で多様に満ちた考え方を学び、自分の視野を大きく広げることができました。

また一方で、学んだ理論をもとにした置籍校での実践研究において、現場の先生方の理解と協力を得て、児童の自己有用感を育む開発的生徒指導の実践研究も進めています。大学で学ぶ理論と置籍校での実践を往還しながら、学校現場の課題解決に向けて先生方の力になれたらと考えています。

教職大学院では、今までの教職経験を振り返る有意義な機会が得られ、切磋琢磨し合える院生仲間との出会いによっても、自己を見つめる貴重な時間を過ごしていると実感しています。

教職大学院での学びや
経験を通して

学校力開発コース

永岡 拓也

多様な場での学びを
生かして

授業力開発コース

松本 周子

私は岡山からこの香川大学に来て、道德教育について研鑽する機会を得ました。大学での生活は、新しい人間関係や発見に溢れた充実したものになっています。授業での学びも大変有意義なものですが、それだけでなく、様々な場で道德教育について学ぶことが大きな財産になっています。主担当の植田先生や道德の授業に関わっておられる七條先生、齋藤先生の紹介でたくさんの学会や研究会にも参加でき、文部科学省の現調査官や、元教科調査官の先生方の講演等を直接聞かせていただいたり、全国の先進的な取り組みの実践発表を見たりと、今まで関わることの無かった新たな学びの世界で、人間関係が大きく広がりました。

大学の講義も、教育課程、子どもの発達と支援、心理学など、幅広く専門的なことを学ぶことができ、自分が実践してきたことが理論で裏打ちされたり、逆に勉強不足を反省させられたりと、今までの自分の実践を振り返るいい機会となっています。道德の教科化に向けて、一番大切な時期に香川大学で学修していることはとても貴重な経験になっています。

こんなことがありました！

池田葉月さん（M2、授業力開発コース）が、平成28年11月に大阪府で開催されました全日本電卓競技大会西日本大会（主催：一般財団法人日本電卓技能検定協会）の団体の部に出場し、見事優勝しました。団体の部は、3名で一チームで、電卓を用いて掛け算・割り算・見取り算・伝票算を行い、合計点を競う競技です。

池田さん、すごい技能ですね、おめでとう！

今後の主な
行事予定

平成29年12月下旬：「香川の教育づくり発表会」で昨年度修了生が発表します。

平成30年3月4日：教職実践研究フォーラム

（詳細については、後日、教職大学院のホームページにてお知らせいたします。

以下のURLを参照してください。）